

高等部教育目標				
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う				
探究型カリキュラム教育/学習目標				
SDGsの達成を目指し、Mastery for Serviceを体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける				
探究型カリキュラムにおける5つの学びの方針		Five Principles for Learning		
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL型/アクション>	3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>	5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>
上位学習目標				
【知識・技能】				
<ul style="list-style-type: none"> ・アートの理解に必要な歴史的背景やモチーフ・技法・展示方法などを適切に用いることができる ・社会課題や哲学的言説について理解し、アートと関連させて説明することができる 				
【思考力・判断力・表現力】				
<ul style="list-style-type: none"> ・アートを見て感じ取ること（＝感性）を通して社会課題を多角的にクリティカルに捉え、自分の考えを構築することができる ・物事に一つの解答を求めるのではなく、複雑なまま受け入れて熟考することができる ・自分自身の価値観やモノの見方を俯瞰し、他との関係性のなかで相対的に意味づけることができる 				
【学びに向かう力・人間性】				
<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を通して自由に世の中を捉えることで、自分の未来の可能性を開いていくことができる ・他者の表現や言説を自分の価値観に照らして、主体的に想像することができる ・作家が内省を突き詰めて作品と対峙することを追体験することで、内在する自己の有りように向き合う姿勢を身につける 				
下位学習目標				
【知識・技能】				
<ul style="list-style-type: none"> ①アート思考と論理思考の違いを理解し、用語として使い分けることができる。 ②対話型鑑賞や作品分析に必要な情報を集め、目的に応じて選択することができる。 ③アートにまつわる哲学的言説や時事、歴史的事実などについて自分の言葉で語るすることができる。 				
【思考力・判断力・表現力】				
<ul style="list-style-type: none"> ①アートとそうでないものとの違いについて鑑賞者と作品との相対性やコンテキストによる関係性を意識して考察することができる。 ②一つのアート作品についての情報を総合し、自分なりの分析を施すことができる。 ③アートプロジェクトや文化政策、パブリックアート等を通してアートに関わる社会課題について推察し見通すことができる。 				
【学びに向かう力・人間性】				
<ul style="list-style-type: none"> ①より多くのアート作品や文献に触れようとするすることができる。 ②一つの作品やプロジェクトに関する学びに対して時間をかけることができる。 ③自らの考えを昇華させるために、他者とアートについて語り、互いの価値観を認める姿勢を身につける。 				

授業日	5/7(火)	1 学期授業回数	3 回目 / 全 9 回																																
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・現代アートが「問い」を呈しているということについて具体例を示すことができる。 ・サイエンスアートの「問い」と科学者の「問い」の違いについて理解することができる。 ・研究計画書を前提に探究テーマを深化させる。																																		
時間 授業内容	5 時間目	生徒による『問から始めるアート思考』の講読、プレゼンを行った。アンディウォーホール『ブリ ロボックス』の事例を通して「日常で見るものも見方を変えればアート作品に置き換えることが できる」という言説を解説し、森美術館での「私たちのエコロジー展」や瀬戸内芸術祭での「ゴミア ート」の例を挙げ、社会問題とアートの関係について生徒がプレゼンを行った。																																	
	6 時間目	生徒があらかじめ考えてきていた「探究のテーマ」について、どのような関心から思い至ったの か、どのような手法でどのようなことを明らかにしたいのかを端的に発表しあった。																																	
評価方法	講読・プレゼン用のルーブリックに従って相互評価を行った。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">観点 1 文章表現を的確にとらえ朗読することができるかどうか</td> </tr> <tr> <td style="width: 10%;">3 点</td> <td>漢字の読みをあらかじめ読べており、難読語や特別な言い回しもスムーズに読むことができる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ところどころ漢字の読みを間違えたり、読み間違えをしている。</td> </tr> <tr> <td>1 点</td> <td>間違えところが多く、スムーズな聞き取りがしにくい読み方をしている。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">観点 2 文章の内容を的確にとらえ伝達することができるかどうか</td> </tr> <tr> <td>5 点</td> <td>筆者の独特の言い回しや、主張を分かりやすくみ抜き、うまく言い換えて伝えることができる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>筆者がこの文章で何が言いたいのがよくまとまっておらず理解できる。</td> </tr> <tr> <td>1 点</td> <td>筆者がこの文章で伝えたいことが不明瞭で、単に本文を切り貼りしてまとめただけの説明になっている。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">観点 3 文章の内容を補完する具体的な資料を示し、探究的・分析的なプレゼンができるかどうか</td> </tr> <tr> <td>9 点</td> <td>該当の文章に関連する具体的な図やデータ、実物資料などを用いて筆者の主張の理証に加え、自らの視点で分析できている。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>該当の文章に関連する具体的な資料を本文で紹介されたもの以外に見つけ、用いている。</td> </tr> <tr> <td>1 点</td> <td>該当の文章に関連する具体的な資料として本文で紹介された作品やデータだけを取り上げている。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">観点 4 伝達しようという意欲の伝わるプレゼンテーションとなっているかどうか</td> </tr> <tr> <td>3 点</td> <td>プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序が促れているだけでなく、声の大きさや視線、ジェスチャーも促れている。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序について、あるいは、声の大きさや視線、ジェスチャーのいずれかが促れている。</td> </tr> <tr> <td>1 点</td> <td>プレゼンに対して十分に準備をできたとは言えない、あるいは、声が小さく自信がなさそうな印象を与えている。</td> </tr> </table> <p>また、記録と考察の欄は後日、別のルーブリックに基づいて評価する。</p>			観点 1 文章表現を的確にとらえ朗読することができるかどうか		3 点	漢字の読みをあらかじめ読べており、難読語や特別な言い回しもスムーズに読むことができる。	5	ところどころ漢字の読みを間違えたり、読み間違えをしている。	1 点	間違えところが多く、スムーズな聞き取りがしにくい読み方をしている。	観点 2 文章の内容を的確にとらえ伝達することができるかどうか		5 点	筆者の独特の言い回しや、主張を分かりやすくみ抜き、うまく言い換えて伝えることができる。	5	筆者がこの文章で何が言いたいのがよくまとまっておらず理解できる。	1 点	筆者がこの文章で伝えたいことが不明瞭で、単に本文を切り貼りしてまとめただけの説明になっている。	観点 3 文章の内容を補完する具体的な資料を示し、探究的・分析的なプレゼンができるかどうか		9 点	該当の文章に関連する具体的な図やデータ、実物資料などを用いて筆者の主張の理証に加え、自らの視点で分析できている。	5	該当の文章に関連する具体的な資料を本文で紹介されたもの以外に見つけ、用いている。	1 点	該当の文章に関連する具体的な資料として本文で紹介された作品やデータだけを取り上げている。	観点 4 伝達しようという意欲の伝わるプレゼンテーションとなっているかどうか		3 点	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序が促れているだけでなく、声の大きさや視線、ジェスチャーも促れている。	5	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序について、あるいは、声の大きさや視線、ジェスチャーのいずれかが促れている。	1 点	プレゼンに対して十分に準備をできたとは言えない、あるいは、声が小さく自信がなさそうな印象を与えている。
観点 1 文章表現を的確にとらえ朗読することができるかどうか																																			
3 点	漢字の読みをあらかじめ読べており、難読語や特別な言い回しもスムーズに読むことができる。																																		
5	ところどころ漢字の読みを間違えたり、読み間違えをしている。																																		
1 点	間違えところが多く、スムーズな聞き取りがしにくい読み方をしている。																																		
観点 2 文章の内容を的確にとらえ伝達することができるかどうか																																			
5 点	筆者の独特の言い回しや、主張を分かりやすくみ抜き、うまく言い換えて伝えることができる。																																		
5	筆者がこの文章で何が言いたいのがよくまとまっておらず理解できる。																																		
1 点	筆者がこの文章で伝えたいことが不明瞭で、単に本文を切り貼りしてまとめただけの説明になっている。																																		
観点 3 文章の内容を補完する具体的な資料を示し、探究的・分析的なプレゼンができるかどうか																																			
9 点	該当の文章に関連する具体的な図やデータ、実物資料などを用いて筆者の主張の理証に加え、自らの視点で分析できている。																																		
5	該当の文章に関連する具体的な資料を本文で紹介されたもの以外に見つけ、用いている。																																		
1 点	該当の文章に関連する具体的な資料として本文で紹介された作品やデータだけを取り上げている。																																		
観点 4 伝達しようという意欲の伝わるプレゼンテーションとなっているかどうか																																			
3 点	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序が促れているだけでなく、声の大きさや視線、ジェスチャーも促れている。																																		
5	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序について、あるいは、声の大きさや視線、ジェスチャーのいずれかが促れている。																																		
1 点	プレゼンに対して十分に準備をできたとは言えない、あるいは、声が小さく自信がなさそうな印象を与えている。																																		
宿題指示	①講読・プレゼンを聞いて記録したこと、考察したことをまとめたプリント（ポートフォリオ）を完成させる。 ②「研究計画書」を完成させる。																																		